

2017年（平成29年） 3月17日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/2～8のNYMEX・WTIは、引き続きOPEC・非OPECの協調減産実施と米国の供給過剰感、さらに早期利上げ観測を材料に、50.28～53.33ドルの範囲でやや軟調に推移した。

3月9日は、前日EIA(米エネルギー情報局)週報で米国原油在庫が9週連続増加したとの報告やヒューストンでの石油業界セミナーにおけるシェール増産の強気見通しなど、米国の供給過剰感を背景に4日続落し、50ドルを割り込んだ。4月限の終値は前日比1.00ドル安の49.28ドルだった。

週末10日は、前日までの早期利上げ見通しと供給過剰感に加え、ペカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数617基(前週比8基増加)との2015年9月以来の高水準稼働の報告により、5日続落した。4月限の終値は前日比0.79ドル安の48.49ドルだった。

週明け13日は、先週末の供給過剰感が続く中、小幅ながら6営業日続落、昨年11月29日(45.23ドル)以来3カ月振りの安値となった。市場の関心は、同日夕刻と明日の米国官民の在庫週報に向っている。4月限の終値は前日比0.09ドル安の48.40ドルだった。

14日は、OPEC(石油輸出国機構)の月報で、先進国の原油在庫の増加が、米国や非OPEC諸国からの増産によるものと報じられたこと、ドル高の進行などから続落した。4月限の終値は前日比0.68ドル安の47.72ドルだった。

15日は、EIAの米国在庫週報が減少したことから反発した。4月限の終値は、1.14ドル高の48.86ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週53.70～54.70ドルと、やや軟調気味に推移した。3月9日は52.10ドル、10日は51.20ドル、13日は49.80ド

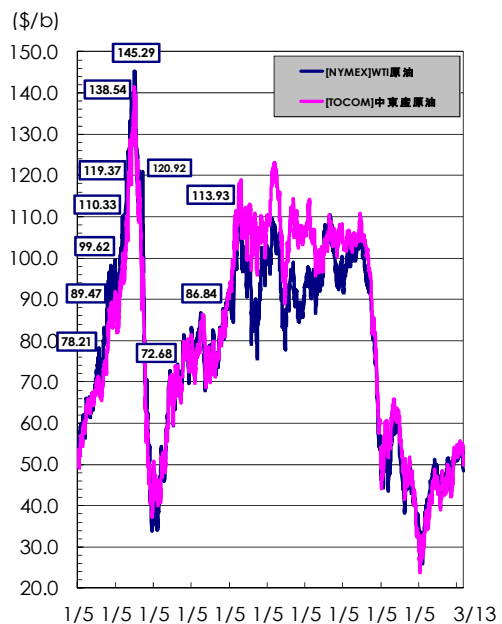
ル、14日は49.90ドル、15日は50.10ドルで推移した。

為替は、前週113.78～114.23円と狭い範囲で推移した。3月9日は114.60円、10日は115.22円、13日は114.82円、14日は114.86円、15日は114.83円で推移した。

主要元売会社の3月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がり、為替レートは円安で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、3月13日時点の小売価格は、ガソリンが1.5円値上がりの133.5円、軽油が1.0円値上がりの112.0円、灯油は0.1円値上がりの78.2円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。この週(3月第2週)の原油コストはわずかに値上がりし、元売の卸価格は1.0円の値下げから2.0円の値上げだった。

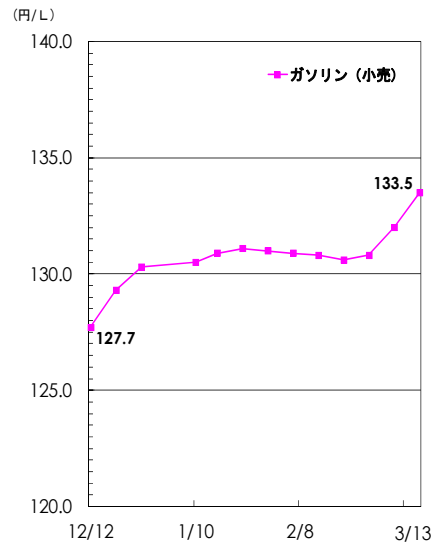
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/5 ~ 3/11	3,707 ▼ -165	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.9 ▼ -3.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/11	13,487 ▲ 903	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/13	49.79 ▼ -4.42	▲ 13.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/13	48.40 ▼ -4.80	▲ 11.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	55.77 ▲ 1.07	▲ 25.34
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,705 ▲ 519	▲ 17,226
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.19 ▲ 0.71	▲ 4.24
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/13	115.82 ▼ -1.04	▼ -0.93



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/5 ~ 3/11	1,013 ▼ -102	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	866 ▼ -111	▲ -	
	輸出	"	170 ▲ 37	▲ -	
	在庫	3/11	1,693 ▼ -23	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/7 ~ 3/13	54.2 ▲ 0.5	▲ 20.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/7 ~ 3/13	52.3 ▼ -0.9	▲ 15.0
		(TOCOM/中部)	3/13	51.2 ▼ -2.0	▲ 14.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/13	133.5 ▲ 1.5	▲ 21.4	

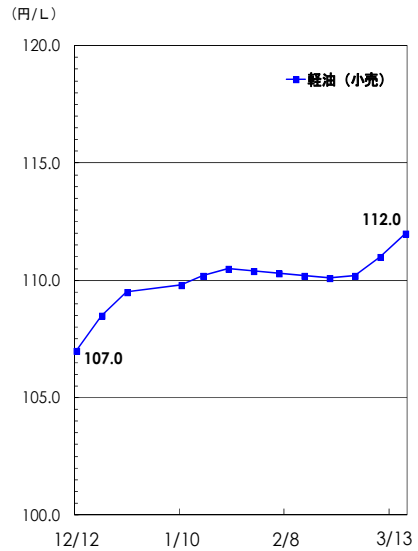
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

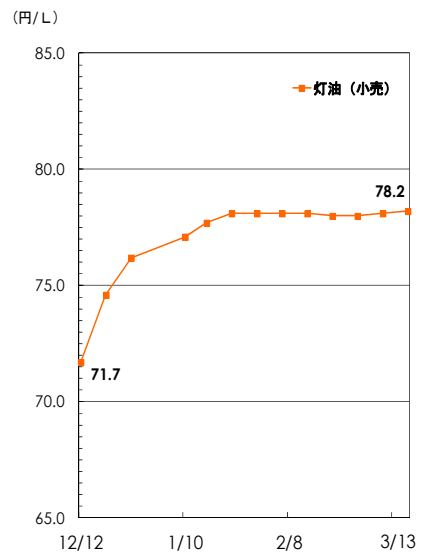
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/5 ~ 3/11	774 ▼ -14	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	612 ▼ -125	▼ -	
	輸出	"	92 ▼ -75	▼ -	
	在庫	3/11	1,561 ▲ 69	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/7 ~ 3/13	51.8 ▲ 0.4	▲ 18.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/7 ~ 3/13	46.0 → 0.0	▲ 9.7
		(TOCOM/中部)	3/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/13	112.0 ▲ 1.0	▲ 14.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/5 ~ 3/11	359 ▼ -39	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	465 ▲ 9	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -20	→ -	
	在庫	3/11	1,235 ▼ -105	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/7 ~ 3/13	50.2 ▼ -0.9	▲ 15.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/7 ~ 3/13	47.3 ▼ -1.7	▲ 13.9
		(TOCOM/中部)	3/13	46.1 ▼ -2.4	▲ 12.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/13	78.2 ▲ 0.1	▲ 17.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月15日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で原油在庫が前週比20万バレル減と市場予想(370万バレル増)に反して減少となったことから反発した。また、米連邦公開市場委員会(FOMC)が本年の利上げを3回としたことから、対主要通貨でドル安となったことも原油先物に割安感を与え、買いを招いた。4月限の終値は前日比1.14ドル高の48.86ドル、5月限の終値は前日比1.03ドル高の49.38ドルだった。

EIAによると、3月13日時点のガソリンの小売価格は前週比1.8セント値下がりの1ガロン2.323ドル(71.0円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.5セント値下がりの2.564ドル(78.4円/ℓ)。ガソリンは3週振りの値下がり、ディーゼルは5週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月5日～11日に休止したトッパー能力は26.7万バレル/日で、前週に比べ18.0万バレル/日の増加(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は370.7万klと、前週に比べ16.5万kl減少。前年に対しては13.2万klの減少。トッパー稼働率は87.9%と前週に対して3.9ポイントの減少、前年に対しては0.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットのみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.2%減、ジェット/41.6%増、灯油/9.8%減、軽油/1.8%減、A重油/13.9%減、C重油/14.9%減。今週のC重油の輸入は8.6万kl(前週比7.7万kl増)。軽油の輸出は9.2万kl(前週比7.5万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格はほぼ横ばいで推移し、小売価格は3週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は86.6万kl(対前週11.4%減)と2週振りに前週比で減少、2週連続で前年比で増加となり、6週連続で100万klを下回った。

ジェット6.2万kl(対前週8.8%減)、灯油46.5万kl(対前週2.0%増)、軽油61.2万kl(対前週17.0%減)、A重油28.6万kl(対前週8.3%減)、C重油28.3万kl(対前週4.9%増)。

(単位：千KL)

	今週 (3/5 ~ 3/11)	前週 (2/26 ~ 3/4)	前週比	
ガソリン	866	977	▼ -111	(-11%)
ジェット燃料	62	68	▼ -6	(-9%)
灯油	465	456	▲ 9	(2%)
軽油	612	737	▼ -125	(-17%)
A重油	286	312	▼ -26	(-8%)
C重油	283	270	▲ 13	(5%)
合計	2,574	2,820	▼ -246	(-9%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月11日時点の在庫は、ガソリン、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは169.3万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては7.3万kl少ない。

灯油は123.5万kl、前週差10.5万kl減。前年に対しては1.2万kl多い。

軽油は156.1万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては11.1万kl多い。

A重油は75.8万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては1.9万kl多い。

C重油は196.9万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては11.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (3/11)	前週 (3/4)	前週比	
ガソリン	1,693	1,716	▼ -23	(-1%)
ジェット燃料	977	868	▲ 109	(13%)
灯油	1,235	1,340	▼ -105	(-8%)
軽油	1,561	1,492	▲ 69	(5%)
A重油	758	760	▼ -2	(-0%)
C重油	1,969	1,930	▲ 39	(2%)
合計	8,193	8,106	▲ 87	(1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月7日から3月13日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円安で原油値下がり相殺したが、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン107～108円台、軽油51円台、灯油49～50円台でやや弱含みである。海上スポット価格は、ガソリン108円台、軽油51～53円台、灯油49～51円台、先物価格はガソリン104～107円台、軽油46円台、灯油45～48円台で、こちらも横ばいからやや値下がりである。元売の卸価格は横ばいから1.0円の値下がりだった。

東燃ゼネラルは3月16日、18日以降の外販スポット価格を、全油種据え置く旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは小幅に値上がりで、製品スポット市況も卸価格値上りの影響もあり、堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、6週続けて100万klを下まわった。

3月第3週(3月16日～3月22日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月7日～3月13日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.5円、軽油は0.4円の値上がり、灯油は0.9円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.1円、灯油は0.1円、軽油は0.6円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.9円、灯油が1.7円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値下がり、為替は円安でこれを一部相殺したが、原油コストは値下がりとなった。

3月第3週の大手元売の卸価格は、横ばいから1.0円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (3/7 ~ 3/13)	前週 (2/28 ~ 3/6)	前週比
	レギュラー	54.2	53.7
灯油	50.2	51.1	▼ -0.9
軽油	51.8	51.4	▲ 0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (3/7 ~ 3/13)	前週 (2/28 ~ 3/6)	前週比
	レギュラー	52.3	53.2
灯油	47.3	49.0	▼ -1.7
軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/7~3/13実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.5	▼ -0.9	▼ -0.2
灯油	▼ -0.9	▼ -1.7	▼ -1.3
軽油	▲ 0.4	➡ 0.0	▲ 0.2
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.5円値上がりの133.5円、軽油が前週比1.0円値上がりの112.0円、灯油は前週比0.1円値上がりの78.2円だった。ガソリン、軽油は3週連続の、灯油は2週連続の値上がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは43都道府県、横ばいは1県、値下がり3県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の128.7円(前週比2.2円高)、2番目が千葉県(同1.3円高)の130.1円だった。最高値は鹿児島県の141.0円(同1.4円高)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比4.3円高の大阪府(134.3円)、

最も値下がりした県は同0.5円安の長崎県(140.4円)、横ばいが大分県(136.9円)だった。

原油コストはわずかに値上がりし、3週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は横ばいから1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートはやや円安だが、原油コストはやや値下がりし、大半の元売りは卸値を据え置いたが、次週(3月21日)のガソリンの小売価格は、前週までの卸価格引き上げの影響が残り小幅な値上がり、一部元売りが卸値を値下げする灯油の小売価格は小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (3/13)	前週 (3/6)	前週比	直近高値	
	レギュラー	133.5	132.0	▲ 1.5	08/8/4
灯油	78.2	78.1	▲ 0.1	08/8/11	132.1
軽油	112.0	111.0	▲ 1.0	08/8/4	167.4

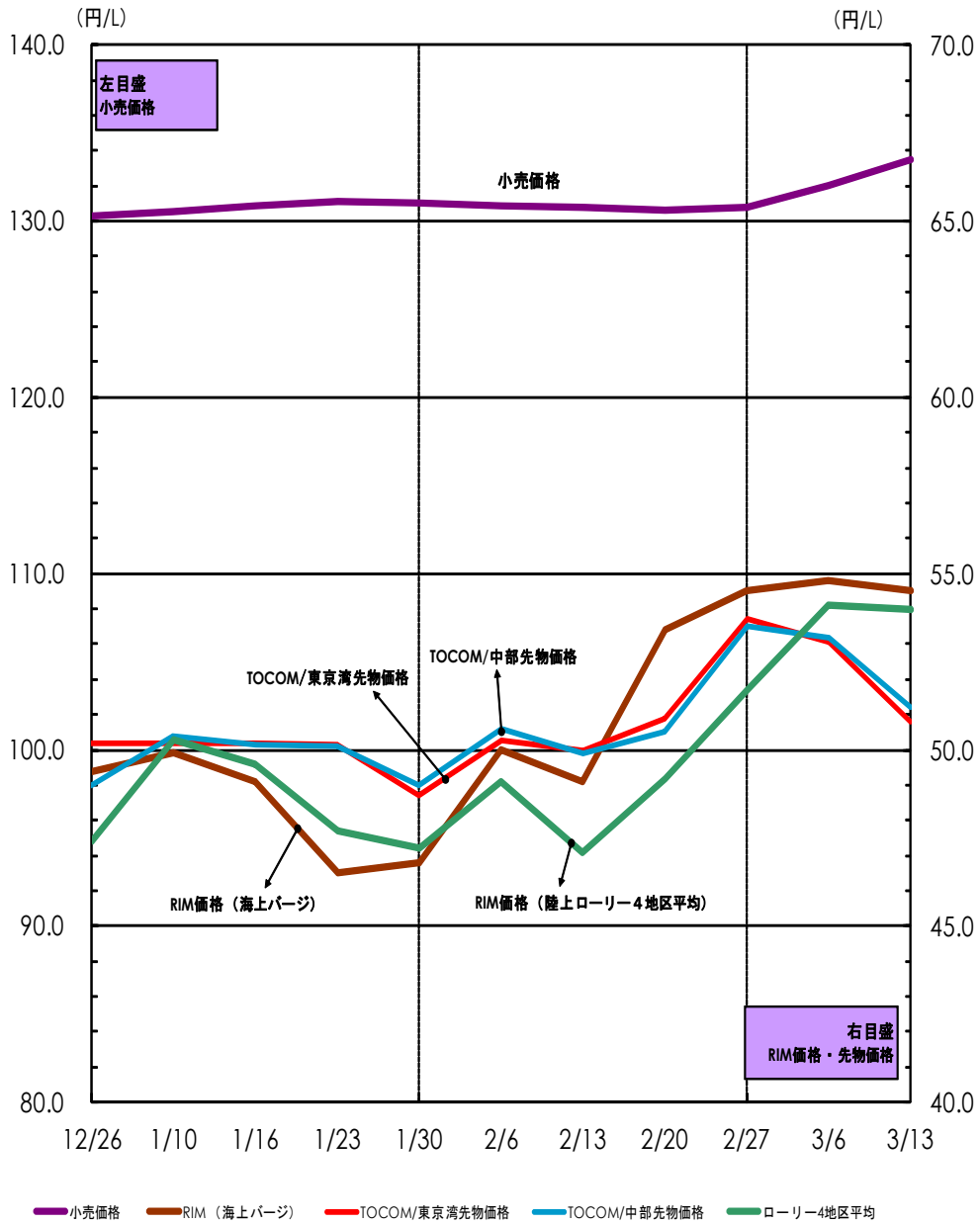
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/12/26 ~ 2017/3/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第49号)の公表は、3/24(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。